独り旅

若杉鳥子

青空文庫

汽車がA駅を通過する頃から曇って来て、霧で浅間の姿も何も見えなくなった。冷たい風と一緒に小雨が降り出して、山際の畔で、山羊が黙々と首を振っている。三つめの駅で汽車を降りた時には、もう日が昏れかけていたし、自動車もあるにはあったが、目的地まで半里だというので、ナニ歩けないことはない——脚には少し自信があるので、私は日和下駄のまま歩き出した。

街はずれで、青い事務服をお揃いに被った娘さん達の群に逢う。この辺の女工さん達が監督に引率されて、遠足にでも出かけた帰りらしい。雨に濡れながら駅の方へ急いでいた。街を出はずれると、それっきり人ッ子ひとり通らない。雨はますます激しくなり、道は爪先き上がりになってくる、所々にある木小屋なども見えなくなると、左は奥深く真っ暗な落葉松の森林だ、右は崖っぷちで、もうもうと立ち罩めた霧の底を流れてゆく水勢だけが、見えないので不気味にすさまじい。しまった、と思ったが、引き返すのも口惜しかった。だがこんな処で霧に包まれてしまったら、どうなるのか解らないという不安に私は段々駈られ出した。歩くにも何一つ目標がなく、眼前に折り重なっていた山々も悉く姿を消してしまって、ただ自分だけが、雨と汗にぬれそぼちながら、徒に霧の中を泳いでいるのだった。少しでも薄暮の光のあるうちに、目的地まで辿り着こうと私は焦った。然し一度来たことのある山路なので、あまり迷いもせずにやっとめざす、その旅宿の灯を見つけることができた。

七月もまだ初旬なので、泊まり客は僅かしかいなかったが、前に来た時には田舎のお盆で、庭に盆踊りがあるとかで、一つも空いている室がなかった。宿屋といってもこの辺には此処一軒きりないので、時間はもう夜の九時だし、今さら東京へ発つにも発てず、その時程、私は困ったことはなかった。「何処か寝かしてだけ貰うところはありますまいか」「さあ何処も一杯です」「物置の隅でもかまわないんですが」私はこんな押し問答をしながら宿屋の土間に突っ立っていた。するともう一人私の背後に女の人がいて「何処かに割り込まして貰うことはできますまいか」といっていた。「さあ困りましたね、大抵男の客ばかりですからね」と宿屋でいった。「男の人の傍でもかまいませんから」こちらは女二人になったことを気強く意識して交渉し出した。とうとうその混雑の中へ泊まることができた。

その晩二人は旅装を解いて、お湯の中で色々と話しあった、女子大学出の、インテリらしい快活な女性だった。話してみると共通の友人を持っていたり、殊にその人が劇作家の某女史の親友であったりしたので、二人は忽ちに十年の交友のように親しくなった。狭い室に一緒に寝て、いろんな話をした。その人は女子大学を出ると、婦人記者を少しやったが、今はある家の家庭教師をしているといった。そしてこの秋には、ローサンゼルスにいる友人をたよって渡米するのだといっていた。

翌朝起きて顔を洗ってくると、彼女は手提げの中から点眼薬を出して、ごろりと仰向けに臥た。目薬をさしてくれというのだった。澄んだ大きい眼をしていて、格別、眼を患っているようでもなかったが、「彼の地では赤線ひとつあってもそれを理由として、日本人の上陸を拒むんですからね」何故そんなに排日の激しい処に行かなければならぬのか知らないが、彼女は異情な情熱を見せてそういった。

朝食が済むと、二人はまた追われるように宿を出た。彼女はかなり多く登山の経歴を持っているらしく、時々遠くに展開する山々を見ては地図を出して確かめては楽しんでいる風だった。そうして二人は白樺の林間をあてもなく歩いていたが、結局友達は赤城へ向かって行くというし、私は東京へ帰ることにした。その日の午後、私達は碓井の麓で袂れを告げた。リュックサックも何もなしに、雨傘一本で山から山へと歩いてゆく、友達の身軽な姿を私は振り返って見送っていた。

――今年も私は頻りとその女性のことが思い出されてならなかった。然し今度はそういう道伴れもなく、独り旅を続けた。独りの旅は寂しいというよりも、勿体なくて仕方のない気持ちだ。何処へ行こうと、集まることさえできるなら、そこにはきっと胸を割って話しあえる、多くの友達があるに違いない、そして私達は熱心に芸術を語り、生活を語り、希望に就いて語るに違いない、だのに無意味に黙々として歩く。それは如何に相対する自然が美しくあろうと、荘厳であろうと、物足りない、もっと胸をうつものがあるべきだ。

こんなことを思うのは、それは私達が都会人であるからだろうか、否々今まで集団の生活をして来たために違いない。だから独りになると渇くようにそれを感ずるのかも知れぬ。

青空文庫情報

底本：「空にむかひて　若杉鳥子随筆集」武蔵野書房
　　2001（平成13）年1月21日初版第1刷発行
初出：「詩精神」
　　1934（昭和9年）9月
入力：林　幸雄
校正：小林　徹
2003年4月2日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

独り旅

若杉鳥子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/